

2014 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦
鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月12日(土曜日) 天候：薄曇り 路面：ドライ

公式予選／2' 08"230 7番手

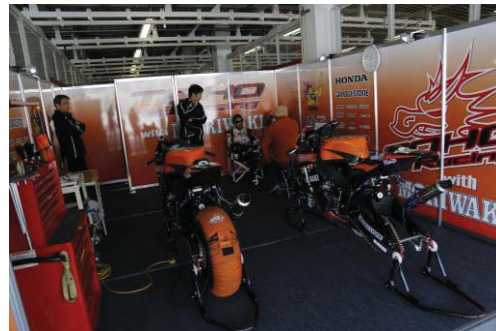
4月13日(日曜日) 天候：曇り 路面：ドライ

決勝／6位 (20周)

開催地：三重県・鈴鹿サーキット

入場者数：51,000人 (土・日合計)

TOHO Racing with MORIWAKIとしてJSB1000クラスを戦う3年目のシーズンが始まった。ここ数年は、4月頭にツインリンクもてぎで開幕していたが、今年は、鈴鹿2&4レースが初戦となった。マシンは、Honda CBR1000Rのキット車、タイヤは、ブリヂストンという組み合わせは変わらないが、サスペンションがKYBとなり、強かにバックアップしてくれることになった。ST600クラスのチャンピオンを獲得して以来のタッグだが、最初からフィーリングは、よく、まだまだ詰める部分を残しながら山口はレースでハイアベレージを刻んだ。



鈴鹿8耐を見据えてスポット参戦するライダーも多く、金曜日は、55台が一斉に走行。タイム差のあるライダーがいる中、マシンセットを詰めていき、ベストタイムは2分08秒442をマーク。メーカー直系チームに食い込む5番手につけた。

土曜日の公式予選は、2グループに分かれて行われた。Aグループの出走となった山口は、35分という限られた中でマシンを確認し、セッション最後にタイムアタックに入ると2分08秒230をマーク。組4番手だったが、総合では7番手と3列目アウト側からスタートすることになった。



2014 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦
鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

今年の鈴鹿2&4レースは、1周約5.8kmの鈴鹿サーキットを20周と、昨年よりも5周も長い長丁場で争われた。一発の速さでは、メーカー直系チームに勝つことは難しいが、アベレージスピードでは、いい勝負ができるはず。決勝日朝のウォームアップ走行では、予選タイムを上回る2分08秒121をマークし、レースに向けて仕上がりは上々だった。

多くのモータースポーツファンが見守る中、2014年シーズン最初のレースがスタートした。山口は、スタートで一つポジションを落とし8番手。オープニングラップは、トップグループが4台、その後方にTeam GREENの2台を挟み、加賀山選手の背後に山口はつけていた。2周目のS字コーナー進入で加賀山選手をかわし6番手に浮上したが、この時点でトップ集団は、かなり離れてしまっていた。

しかし山口は諦めなかった。セクター1では最速タイムをマークしながらコンスタントにハイペースで走行を続けると、ペースの下がったTeam GREEN勢、ヨシムラの津田選手のテールが近づいてくる。そして残り2周を切った19周目、やはりS字コーナー進入で津田選手を捕らえ6番手に浮上。そのまま運命のラストラップに突入する。バックマーカーを縫うようにコーナーをクリアしていくが、130Rで山口が引っかかってしまい加速がやや鈍ってしまう。山口はインを抑え、津田選手はアウトから仕掛けてくる。シケインへのブレーキング勝負となるが、山口も突っ込み過ぎてしまうが、津田選手は、さらに奥まで突っ込み完全にコースアウト。山口が、このバトルを制し6位でチェッカーフラッグを受けたのだった。



2014 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦
鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

ライダー/監督 山口 辰也コメント

「今年から、KYB 様とレースをやらせて頂くことになりました。開幕前に十分テストが出来ないままレースウイークに入りましたが、最初のフィーリングからとても良く、タイヤのグリップを感じ取ることができたので、バランスを取ることができれば直ぐにでもベストを出すことが可能だと思いました。

ウイーク中の限られた時間では、納得がいくまでのバランスをとることができず、予選では7秒台には入れられませんでした。朝のウォームアップ走行で、もう一度セットアップを試し、現状でのバランスはある程度とることができたので、予選タイムよりも速く走ることができました。

決勝はスタートで遅れてしまい、ワークスマシンにストレートで放され、コーナーで追いつくことを繰り返しているうちに、トップグループ、第2集団にも放されてしまい、なかなか追いつくことが出来ませんでした。しかし、後半に7秒台で走っていたので、ヨシムラ津田選手には追いつき、最終ラップに前に出ることが出来ました。結果は残念ですが、レース中盤にセクター1で赤マークが出たと聞いたので、セットアップは良い方向に進んでいると思います。

次戦は得意なオートポリスなので、テストからしっかりとセットアップを進め、キット車で勝ちたいと思います。」

チーフメカニック 戸井田 剛コメント

「今年から KYB 様のサスペンションに変更し、限られた走行時間の中で KYB 様のご協力を頂き、良い形でセットアップを進めていくことが出来ました。今後、さらにセットアップが進めば速いタイムで走行できると思うので、第2戦オートポリスでも良い走りをし、もっと上を目指していきたいと思います。」

